

つつが虫病に関するQ&A

Q1 つつが虫病とはどのような病気ですか？

つつが虫病は、リケッチア*を起因菌とする感染症であり、ダニの一種であるツツガムシが媒介します。患者は、汚染地域の草むらなどで、有毒ダニの幼虫に吸着され感染します。発生はダニの幼虫の活動時期と密接に関係するため、季節性がみられます。

症状としては、潜伏期は5～14日で、典型的な症例では39℃以上の高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なダニの刺し口（写真2）がみられ、その後数日で体幹部を中心に発疹（写真3）がみられるようになります。

*リケッチア：マダニやツツガムシなどの節足動物を自然宿主とする細菌（写真1）

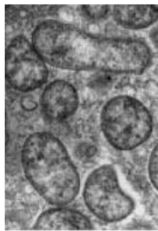


写真1. *Orientia tsutsugamushi* の電子顕微鏡写真（新潟薬科大学微生物学教室 浦上弘先生提供）



写真2. ダニの刺し口
（須藤恒久著「新ツツガムシ病物語」より）



写真3. 発疹
（須藤恒久著「新ツツガムシ病物語」より）

国立感染症研究所 HP: ツツガムシ病とは

(URL: <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>)

Q2 流行する時期は？

つつが虫病は、ツツガムシが孵化する秋～初冬にかけて多くの発生が認められます。一方、東北・北陸地方では春～初夏にも発生が認められます（図2）。

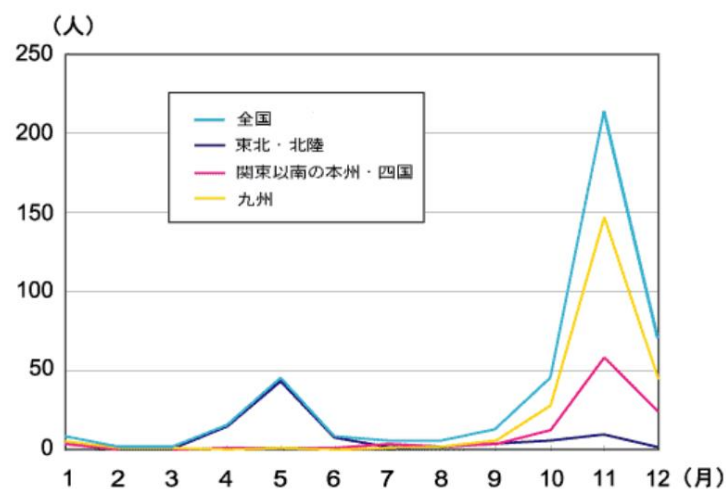


図2. 月別地方別の患者発生数（1998年）

国立感染症研究所 HP: ツツガムシ病とは (URL: <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>)

Q3 どのようにして感染するのですか？

リケッチアを保菌するダニの一種であるツツガムシの幼虫に吸着され、組織液を吸われた際に感染します。日本において、アカツツガムシ、タテツツガムシ、フトゲツツガムシの3種がリケッチアを保菌するとされており、それぞれのダニの0.1～3%が菌を持つとされています。なお、人から人への感染はありません。

Q4 治療方法は？

治療には、早期に本症を疑い、適切な抗菌薬を投与することが極めて重要です。第一選択薬はテトラサイクリン系の抗菌薬であり、使用できない場合はクロラムフェニコールを用います。

Q5 予防方法は？

本症の予防に利用可能なワクチンはないので、ダニの吸着を防ぐことが最も重要です。具体的には、

- ・ 肌の露出を減らしましょう
 - 長袖・長ズボンを着用する
 - 帽子・手袋を着用し、首にタオルを巻く
 - 足を完全に覆う靴を履く（サンダルなどは避ける）
- ・ 虫よけ剤を使いましょう
 - ダニに効くもの（成分：ディートやイカリジンなど）を使いましょう
- ・ 野外活動後は入浴し、刺されていないか確認しましょう



Q6 刺された場合の対処方法は？

刺された場合は自分で無理に引き抜かず、医療機関を受診し、適切な処置を受けて下さい。

Q7 県内の発生動向は？

2006年から2015年までは、0例から多くて2例報告されていましたが、2016年以降ほぼ毎年のように報告があり、2024年は過去最多の3例の報告がありました。

保健所別にみると、東近江保健所管内の医療機関からの届出が多く、2006年以降14例中9例を占めています。

滋賀県 感染症発生動向調査 全数把握疾患

